

Operating

System

Maniacs

Version 5.5

マイナーOS駆け足レビュー(4)

立神梢一

すっかり連載企画になっているマイナーOS紹介の第4弾をお届けします。

1.本稿の目的

毎号同じことを書いていますが、本稿の目的を明確にするために記載します。

まず、マイナーOSと一口に言っても、いろいろな分類があります。商用で発売されていたがシェア争いに敗れ、以降開発がストップしたりしてマイナーとなってしまったもの、歴史的経緯でなくなってしまったもの、元から個人開発だったり、技術系の大学のゼミなどで作成されたもので、元からマイナーであったもの、商用で使用されているが絶対数は少ないもの、民生品としては使用されないため一般的にはマイナーなもの、などです。

本稿では基本的にToyOSと呼ばれるものを中心に扱うことが多いですが、ToyOSというには発展している物、あるいは古い物とは言え、商用OSや試用版も混じっていることもあります。

基本的にはマイナーなOSについての起動や導入についてを中心に紹介していきます。

2.本稿の環境

本稿は全て、以下の環境で行いました

2-1.物理的なマシンは用意しない。全てVMWare上で行う

VMWareはServer1.0の最新版をダウンロードして使用します。(実験中に1.0.8がリリースされましたが、本実験はVer1.0.7を使用しています)

なお、何故2.0を使わないかという、起動画面のスクリーンショット保存に難がある(というかコンソール側に機能がどうも存在しないようです)ためです。

2-2.コンパイル等が必要な場合は、これも仮想環境上で行う

テスト環境同様、仮想環境上にDebian GNU/Linuxをインストールし、必要な場合はその上でコンパイル等を行います。

当方に基本的に開発知識がなく、エラーメッセージを頼りに当方ではよく理解していないライブラリの類をインストールしなければならないケースを想定して、仮想環境内に環境を用意しています。

また、DOS上でフロッピーを作成したり、DOS上に展開するようなものがある場合は、同様にVMWareにMS-DOSをインストールし、使用します。(データの受け渡しはISOイメージを使って仮想CD-ROM経由で行います)

なお、実験を実施して起動等が不可能な場合、基本的にはNG物件としてまとめておき、別途ご紹介するなり、実機を用いての実験をするなどを考えています。

3.各項目の詳細について

基本的に、各OSについては以下のようにまとめています。

1. OS名
2. あればURL(オフィシャルサイトやsourcefargeなど)
3. スクリーンショットと簡単な当方のコメントなど

という流れでご紹介していきたいと思います。

スクリーンショットは基本的にモノクロに変換しております。元がカラーのものなどは個別にコメントをつけたいと思います。

また、黒地に白文字で表示されるものが殆どですが、全て白黒を反転させています。黒ベタが多いと印刷にあまり綺麗に出ないと思われるためです。

4.補足事項

前回もご紹介していますが、各OSのオフィシャルサイトはもちろんなのですが、現在のマイナーOSというか、Toy OSについては、その殆どが、SourceforgeとGoogle Codeを追いかけることで、大体のものは発見することが出来ると思います。

sourceforge
<http://sourceforge.jp/> (日本)
<http://sourceforge.net/> (米国)

GoogleCode
<http://code.google.com/>

では、次ページからマイナーOSの紹介をしていきたいと思います。

5.マイナーOS駆け足レビュー

1.Vsta

<http://www.vsta.org:8080/>

VSTaは、Andrew Valenciaという方が作成したOSです。

元々はQNXとPlan9に刺激されて作成をしていたようですが、作者の関心は現在は別のOSに移っており、メンテはされていない模様です。一応2007年ごろまではフォークしたFMI/OSという後継OSもあったようです。

それなりの完成度はあると思うのですが、初動の敷居の高さというかインストールの面倒さなどがあり、海外でたまにインストールした結果を見るのみで、それほど情報も無かったため、今回インストールを試みてみました。

作者の方が現在作成しているものは、ForthOS(<http://www.forthos.org/>)というものだそうです。こちらでもまた若干導入の敷居が高そうですが(というか以前片手間にやろうとして失敗した)、いずれ試してみたいと考えています。

なお、若干古い記事ながら、海外の方で以前にVMWareにインストールした方がいらっしゃって、その当時はパッチがないと動かない、とのことでしたが、とりあえずノーパッチでも動きましたので参考までに。 <http://www.lava.net/~newsham/vsta/vmware.html> Version的な問題だとは思いますが。

・VSTaのインストール

まずはインストールからです。

本稿では、オフィシャルというかVSTa各種配布データ内にある情報に則って作業をします。

1.データの入手

VSTaのオフィシャルサイトは上記の通りです。ページ内に記載のあるリンクから、最新版(といってもかなり前のものですが)がダウンロードできます。Versionは1.6.8です。かなり沢山のファイルがありますが、とりあえずはすべてダウンロードします。下記は各ファイルの説明になります。

vsta.tar.gz: VSTaのバイナリインストールイメージです。

vsta_src.tar.gz: (obsolete) VSTaの古いソースコードです

vsta_cvs.tar.gz: CVSでストアしているVSTaのソースコードです。

account.tar.gz: サンプル用のユーザーアカウントです。

bc.tar.gz: GNU BC

diff.tar.gz: GNU diff と関連ソフトウェア

editor.tar.gz: microemacs, vim, edなどのエディタ

games.tar.gz: ゲーム

gcc.tar.gz: GCC と関連ツール

graphics.tar.gz: グラフィック関連ユーティリティ

gzip.tar.gz: GNU gzip

ka9q.tar.gz: KA9Qベースのネットワークソフトウェア

lang.tar.gz: flex, bison, などのツール

make.tar.gz: Makefile(s)

mgr.tar.gz: MGR ウィンドウシステム

misc.tar.gz: 種々雑多なパッケージ類

python.tar.gz: Python プログラミング言語

sc.tar.gz: GNU SC

shell.tar.gz: ash, test, rcなどのシェル

small.tar.gz: smalltalkパッケージ

sim.tar.gz: CPU シミュレータ

text.tar.gz: GNUのテキスト処理ユーティリティ

2.環境の準備

VSTaのインストール解説ファイルを見ると、DOS上でファイルシステム作成、ディレクトリ作成、必要なファイルの

展開、を行っています。OS単体のインストールも可能ではあるようです。

※Linuxから別ディスクにFATフォーマットで領域を作り、そこにデータを展開し、Grubで起動するなど。とりあえずまずは起動させることを中心に考え、MS-DOSを用いて準備をします。

まずは、VMWareで実験用マシンの準備をします。「本稿の環境」にも若干記載がありますが、当方は、MS-DOS 6.22英語版を用意しました。

MS-DOSのインストールについてはあまり書くこともないのですが、一応。当方もCD-ROMからのインストールをあまりしたことがないのですが、フォーマットしていないディスクにインストールするのはできないようです。一度CD-ROMから起動してフォーマットし、それからインストーラを起動しなおすとうまくいきました。

次に、VSTaインストールに必要なものの準備をします。最低限、DOS上でtar、gzipが解凍できるものがが必要です。このへんは適当に入手してください。

旧VersionのVSTaにはtarやgzipのコマンドも同梱されていたのですが、現在はないようです。

(今はVersion1.6.8のファイルしか置いていない)

ネット上をググるなりなんなりしてうまいこと準備してください。勿論DOSとLinuxが同じ端末やVMWareで動作しているのであれば、Linux上で展開してDOSファイルシステム上に置くといったことも可能だと思います。

3. インストール

準備しましたら、以下のファイルをCD-ROM(というかISOイメージ)で準備して、DOSに持って行きます。

VSTa1.6.8配下の全.tzファイル

MS-DOS用のgzip/tarプログラム

VMWareを使用していますので、基本的にISOをCD-ROMドライブに割り当ててやれば問題なくMS-DOSから読み込めます。

※CD-ROM版でないMS-DOSの場合はCD-ROMドライブを組み込む必要があるかもしれません。CD-ROM版の場合はCD-ROM起動をして、2を選択するとCD-ROMドライバの設定をしてくれます。

CD-ROMのファイルをMS-DOSファイルシステム上にコピーします。

普通にxcopyを使ってコピーしてください。ディレクトリは適当でもよいですが、下記のVSTaディレクトリに置いておくと、後々楽かもしれません。

まずは以下のディレクトリを作成します。

```
c:\>mkdir vsta
cd vsta ※このディレクトリにvsta.tzをコピーします。
c:\>vsta gzip -d vsta.tz
c:\>vsta -xvf vsta.tar
```

なお、「[」が正常に解凍できませんが、manが表示できないだけなので気にせずに先に進みます。

とりあえずまずは最初の起動をします。

4. VSTaの起動

起動にはgrubを使います。

最近のgrubにはfdイメージがないみたいですが、とりあえず起動できればいいので、最低限の用を成せばいいです。基本的にはgrubのsourceを持ってきてやるのが正しい道なのでしょうが、今回は起動できればいいので、以前にVSTaのサイトで配布していたgrub-0.5.0を使います。

バカ古いですが、起動できればいいので。

起動の仕方は単純で、まず、Grubの起動フロッピーを作り、起動後にコマンドラインから起動情報を与えるだけです。

stage1とstage2ファイルが用意されていたので、今回はそれを元にFDDイメージを作りました。

なお、Linuxだと

```
cat stage1 stage2 | dd of=/dev/fd0
```

で作れます。当方は面倒くさがりなのでこれで作成しました。(VMWareでディスクイメージマウントにして、イメージ作成しています)

DOSの場合は

```
copy stage1+stage2 /b grub
```

とかで1ファイルにしてrawriteでいいのかな？

あるいは古めのgrubのfddイメージを探してきて書き込んだほうが早いかもしれません。

添付のFDイメージはVSTaフォーマットだそうで、DOSからは読み込めませんでしたので、最初はコマンドラインから打ち込んでいます。

とりあえずGrubプロンプトで以下のように打ち込みます。

```
root= (hd0,0)
kernel= /vsta/boot/vsta
module= /vsta/boot/cons
module= /vsta/boot/namer
module= /vsta/boot/wd d0:readp
module= /vsta/boot/dos -d //disk/wd:wd0_dos0 -n fs/root
module= /vsta/boot/init
boot
```

これで、VSTaが起動してくるはずです。

```
syslog: wd (pid 5) info: unit 0: 2048.0M - LBA
syslog: dos (pid 7) info: FAT16 filesystem established
syslog: env (pid 14) info: environment manager started
syslog: devnull (pid 18) info: null service started
syslog: selfs (pid 22) info: filesystem established
syslog: pipe (pid 12) info: pipe filesystem started
syslog: tmpfs (pid 16) info: filesystem established
syslog: proc (pid 20) info: proc filesystem started
Tue Dec 15 22:06:40 2009 GMT

Welcome to VSTa v1.6.8!

login: _
```

入力内容が長いので、できればちゃんとmenu.lstなり何なりに書きましょう。面倒すぎる。
 当方も以前に入手していたfatフォーマットのgrub-0.9.7に差し替えてmenu.lstに記載しなおしました。

ディレクトリ構成は以下のようになっています。

bin 各種コマンド

```
vsta$ tar -zxf account.tz
vsta$ tar -zxf bc.tz
vsta$ tar -zxf diff.tz
vsta$ cd bin
vsta$ ls
adb      cmp      ed       gls      mkfs_bfs rcsdiff  stat     uniq
ar       co       egrep    gmake    mkfs_vfs rcsdo    strings  units
arc      COMM    emacs    grep     more     rcsmerge strip    unzip
args     cons    expand    gzip     mt       reboot   stty     uuencode
as       cp      expr     head     mv       rh       sum      uuencode
ascii    cpp     false    hostname nl       rlog     swapd    vi
awk      csplit  fgrep    id        nm       rm       tac      view
backgamm ctags   file     ident    objdump  rmdir    tail     vls
basename cut     find     join     od       roff     tar      wc
bc       cvs     flex     kill     paste    runrc    te       which
bison    date    fmt      ld       patch    sdiff    telnetd  whoami
cat      dd      fold     less     pfe      sed      test     xargs
cc       diff    fsck_vfs login    pr       setime   testsh   yacc
cc1      diff3   fsdb_vfs ls       printf   sh       touch
changed  dirname fstab    m4       ps       shutdown tput
chmod    djpeg   gawk     make     purge    size     tr
ci       du      gcc      man      pwd      sleep    true
cjpeg    dumpsect gdb      merge    python   sort     uname
cksum    echo    ginstall mkdir     rcs      split    unexpand
vsta$ _
```

lib 各種ライブラリ

etc システム設定ファイル

doc ドキュメンテーション

```
vsta$ cd ../lib
vsta$ ls
bison.hai      ld.shl          libfl.a          libregex.shl    libtermcap.shl
bison.hairy    libc.a          libg.a          libregex.a      libusr.a
bison.sim      libc.shl        libgcc.a         libregex.shl    magic
bison.simple   libc_s.a        libjpeg.a        libsrv.a        termcap
crt0.o         libcurse.a      libm.a          libtermc.a      units.lib
crt0srv.o      libcurses.a     libm.shl        libtermc.shl
ld.a           libdpart.a      libregex.a      libtermcap.a
vsta$ cd ..
vsta$ ls
_archive boot     etc      include mgr      src
bin      doc      guest    lib      root
vsta$ ls /vsta/lib
bison.hai      ld.shl          libfl.a          libregex.shl    libtermcap.shl
bison.hairy    libc.a          libg.a          libregex.a      libusr.a
bison.sim      libc.shl        libgcc.a         libregex.shl    magic
bison.simple   libc_s.a        libjpeg.a        libsrv.a        termcap
crt0.o         libcurse.a      libm.a          libtermc.a      units.lib
crt0srv.o      libcurses.a     libm.shl        libtermc.shl
ld.a           libdpart.a      libregex.a      libtermcap.a
vsta$ ls /vsta/doc
coding.txt  faq.txt      man          rel_todo.txt  select.txt    todo.txt
doc         features.txt passwd.txt    roadmap.txt   ten.doc
vsta$ M_
```

doc/man roffフォーマットのman
src/os Kernel ソースコード
src/os/make コンパイル時のカーネル格納ディレクトリ
src/os/kern Cで書かれたカーネルソースコード
src/os/mach i386用カーネル及びアセンブラ
src/srv ファイルシステムなど
src/srv/mach ディスク、キーボードなどのサーバ
src/bin コマンドのソースコード
src/lib ライブラリのソースコード
src/bin/ports UNIXライクな各種ソフトウェアの格納ディレクトリ

デフォルトで仮想スクリーンがサポートされており、Alt+F1～4で切り替えられます。

各種VSTa168配下ファイル(.tz)を解凍すると、基本的に/src/*に解凍されるようです。VSTaは標準でtarコマンド持っていますので、VSTa起動後に解凍できます。普通にUNIXライクに tar -zxf でよいです。

さて、システムのリビルドのようなことが出来るようなのですが、残念ながらうまくいきませんでした。
インストールマニュアルを見ると、

```
Sh -x mkall
```

で、システムのリビルドが可能なような表記になっているのですが、

```
Can't Open mkall
```

とメッセージがかえってきてしまい、上手くいきません。。カーネルソースの解凍がうまくいっていないかもしれませんが。

仕方ないので個別のディレクトリに移動して、簡単そうなものをビルドしてみることにしました。

/src/bin/ports配下に、edがあるのを発見したので、ちょっと試してみます。

Makefileはあるので、そのままmakeをたたいてみます。

うまく結果が返ってきたようです。

その場でコマンドを実行してみると、一応うまく動いているように見えます。

生成されたプログラムファイルはbinディレクトリなどに移動するなどしてみてください。

Manコマンドについて

当初のファイル解凍時に”[“ がDOSでうまく解凍できていないことで、manが表示できません。

たとえばLinuxの入ったマシンの別ディスクに入れる場合など、事前に解凍することが出来るのであれば

この問題は発生しないのですが、今回はDOS上で解凍しているため、ファイルがありません。

本来はシステム全体をリビルドするのがきっとスジなんでしょうけれど、当方は若干強引な方法でクリアしました。

VSTaは先ほど書きましたとおり、tar.gzを標準で解凍できます。

なので、vstaのバイナリファイル(vsta.tz)を、適当なディレクトリを作ってその中に解凍し、”[”ファイルのみbin配下に移動してみましたらうまくman(数は少ないようですが)も参照できました。

5.雑感など

なんというか、それなりには良く出来ているように思います。

mach関連のファイルもあるので、mach上でなんか動かしてる感じなんでしょうか。

挙動は非常になんというかOld Liux的というかUNIX的というか。基本的な挙動はLinuxと変わらないように見えますが、さすがに機能的には劣る部分も数多いです。

時間がどうしても取れずに突っ込んだ実験は出来ていませんが、かなりいろいろなモノが用意されており、時間をかけていじくったら面白いかもしれませんね。

シェルなんかもいろいろ使ったり出来そうですし、もしかしたらサーバなんかも動かしたら楽しそうですね。

ソースコード内をあまり眺めたり出来ていないことと、そもそも当方があまり技術的にOS内部の話に詳しいわけではないという情けない理由で、詳細に解析することなどは出来ていませんが、とても興味を持てるOSです。

いくつかの点でトラブルも出ましたので、記載しておきます。

- tarコマンドで「broken pipe」メッセージが出る

これはtarコマンドでzオプションを付けているからなのか(としても、自身で配布しているtar.gzファイルを解凍できないってのもあれですが)、あまりきちんと検証出来ていません。

単純にCPUやメモリ能力の問題ならばよいのですが、そうではないのであればちょっと勿体無いですね。

もしかしたらgzipで先に単なるtarボールにして解凍をすればうまく行くのかもしれない。

カーネルリビルドなんかも、これでうまくいって何か解凍されていないのかな?とも思います。

- キーボードが英語モード

これはキーマップ用意してやればうまく行くのかな?

とはいえ流石に日本語通したりするのはむずかしからうというものあるので微妙なところですが。

引き続き実験してみたいと考えています。

2.MikeOS

<http://mikeos.berlios.de/>

MikeOSは、アセンブラで書かれた16BitOSです。2009年の12月9日に、Version4.1までリリースされています。

テストをするのも非常に簡単でした。上記URLのダウンロード先から全てのデータがダウンロードできます。

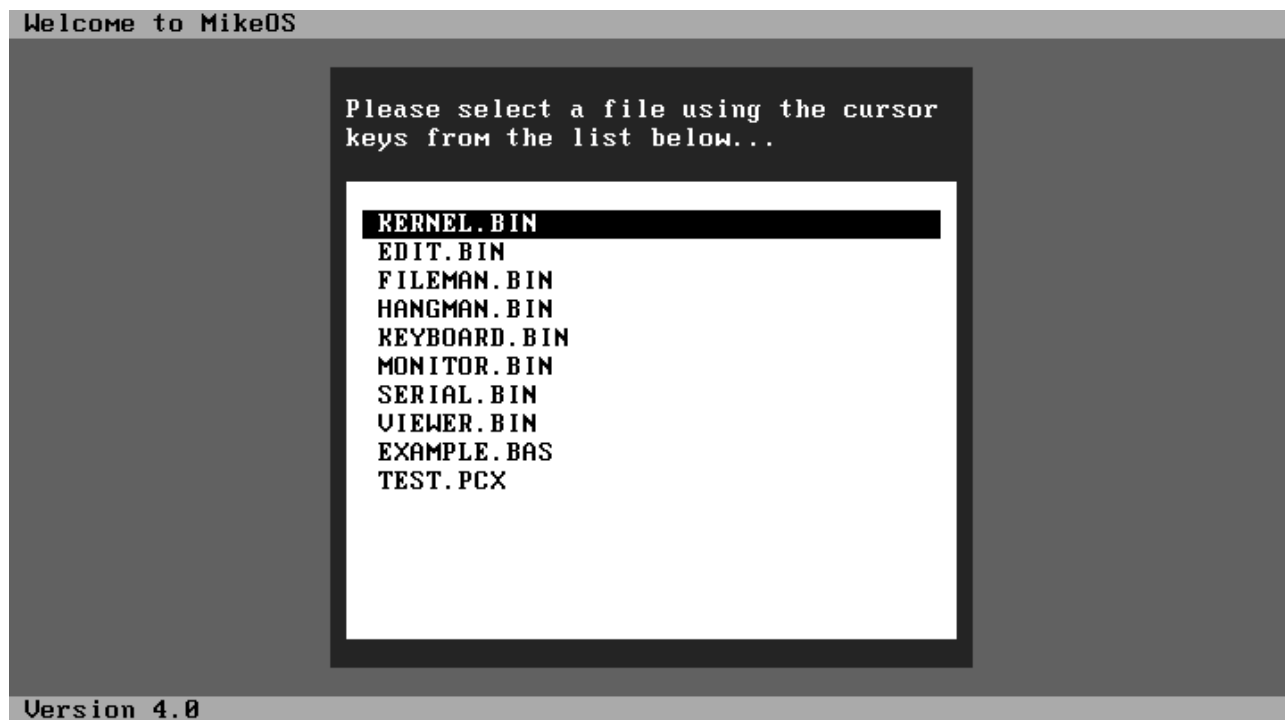
Windows上でBuildするためのバッチファイルなども用意されているようです。

ディスクイメージも用意されており、すぐにテストをすることも可能です。

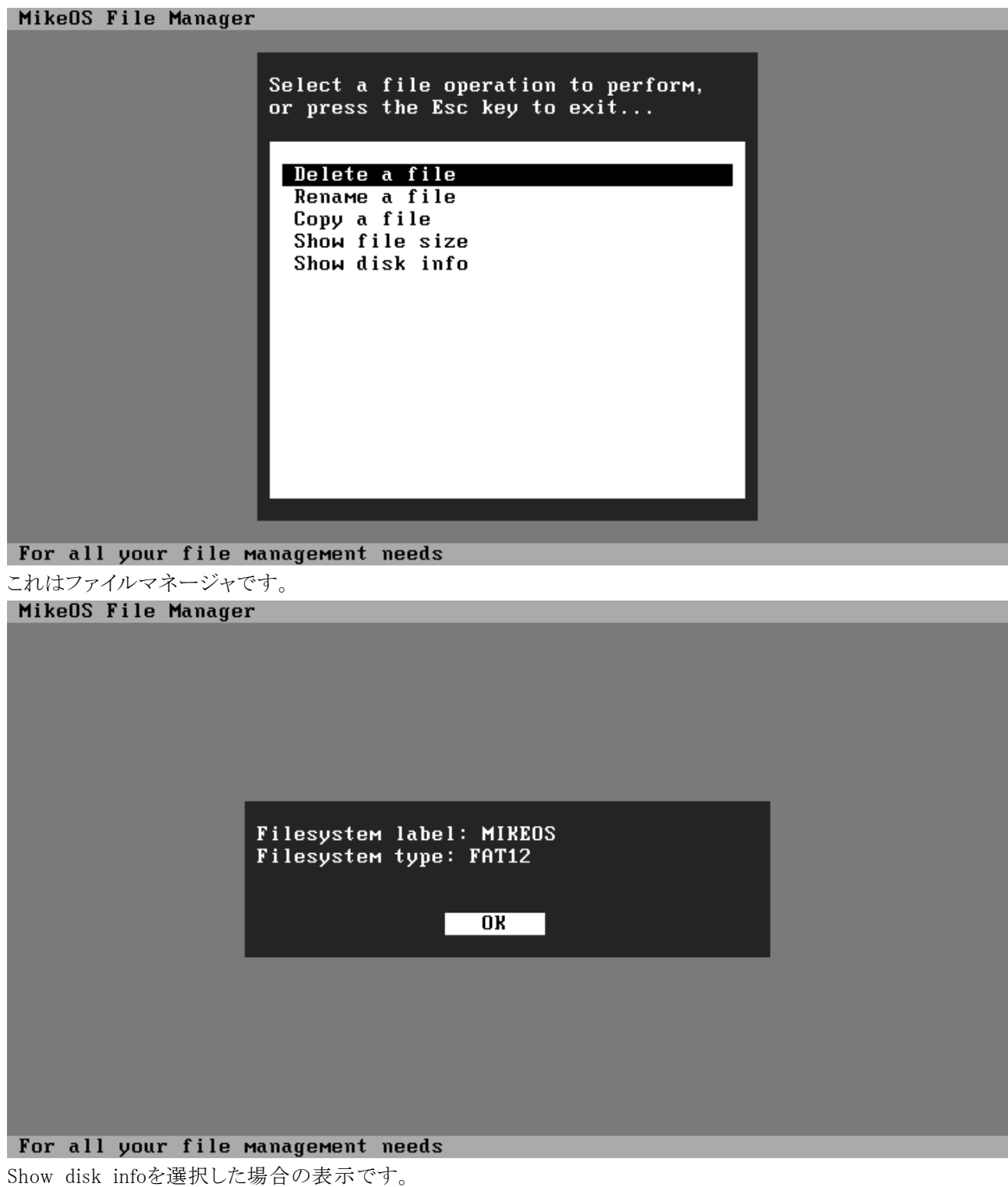
当方はISOイメージでテストしました。

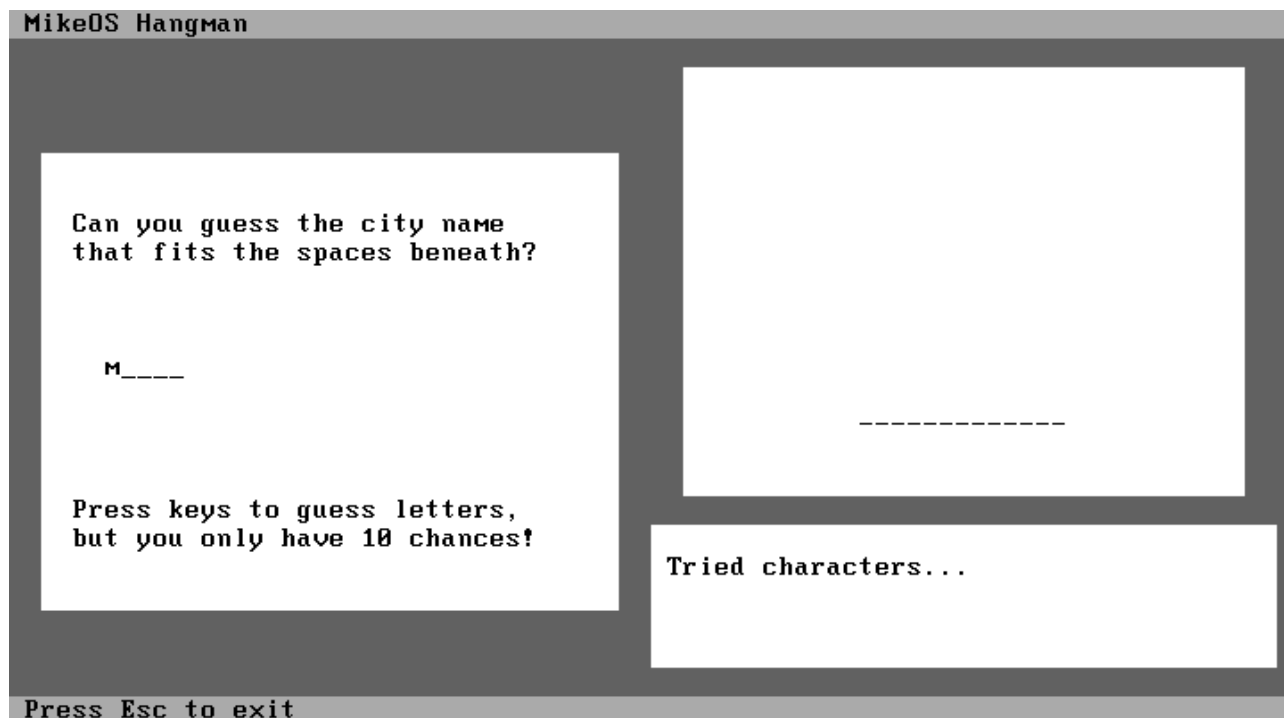


VMWareでCD-ROMドライブ指定で該当のISOイメージを直接指定し、読み込みます。するとすぐに上記画面になります。



あまり画面に変化が無いように見えますが、これはテキストエディタのファイル指定画面です。





HANGMAN.BINを選択するとHANGMANが遊べます。

```
MikeOS minicom -- Press F8 to quit
Connecting via serial at 9600 baud...
```

SERIAL.BINを選択すると、コンソールポートからの入力待ち受けになりました。
これでどの程度のことが出来るのかまでは試していません。



開発者の方とお遊びパッケージでしょうか。VIEWERでTEST.PCXを選択して開くとお目にかかることができます。

```
MikeOS 4.0
Inbuilt commands: DIR, CAT, CLS, HELP, TIME, DATE, VER, EXIT
> _
```

```
MikeOS 4.0
Inbuilt commands: DIR, CAT, CLS, HELP, TIME, DATE, VER, EXIT
> dir
KERNEL.BIN
EDIT.BIN
FILEMAN.BIN
HANGMAN.BIN
KEYBOARD.BIN
MONITOR.BIN
SERIAL.BIN
VIEWER.BIN
EXAMPLE.BAS
TEST.PCX
> time
12:21 AM
> date
12/24/2009
> ver
MikeOS 4.0
> help
Inbuilt commands: DIR, CAT, CLS, HELP, TIME, DATE, VER, EXIT
> -
```

最初のメニューでキャンセルすると、コマンドラインに入ることができます。

雑感

シンプルにまとめられており、また起動、動作面では問題なく動かせることから、本来的にはソースコードとかおっかけてAPI仕様確認したり自分でコード書くときの参考にしたりするのが正しいんだろうなと思ったり。。
非常によく出来たOSだと思います。日本でのOSASKとかMONAとかポジションなんでしょうか。
もともと基本的なOSの設計と、x86の学習のために作ったものだとか開発者の方もコメントしているようですね。

以下は前回ペーパーに載せたDS Linuxの導入記事です。

わりといまさらなDSLlinux

当方は、任天堂DS(一番古いシルバーのやつ)を持っています。

相方からプレゼントされたのですが、実はゲームをひとつも持っていなかったりします。

※2009年11月頃にコナミミュージアム買ったんで1本はもってますが。。)

で、何をしているかというと、DS Linuxを入れたりしてます。全然中途半端ですが。。

DS Linuxのインストール

<http://kineox.free.fr/DS/>

基本的には、すでにインストール方法は確立されており、それほど難しいものではないです。

むしろ今後、マジコンの入手が困難になることが予想されることが一番痛いのではないかと思います。

インストール方法は、日本語ページで詳しい解説をなさっている方がいらっしゃいますので、そちらも参考にしてください。

http://www.geocities.jp/pico_computer/index.html

準備

ハードウェア

- ・任天堂DS

当方は古いものの旧型でしたが、今だとDS LiteやDS iが主流なのでしょうか。その分樂に動かせたと思います。

ちなみに、DS Liteでは動くようですが、DS iで動くのかどうかはわかりません。

- ・マジコン

大体のものは動くようですが、当方は秋葉でR4を購入しました。

- ・MicroSDカード(2GB)

当方はマジコンについていたものをそのまま利用しています。

- ・Windowsマシン

ちゃんとパッチが当てられればどのような手段でも良いのだと思いますが、とりあえずWindowsPC上で作業をするのが見た目もわかりやすいかなと思います。

ソフトウェア

- ・DSLlinux本体

<http://kineox.free.fr/DS/>

からダウンロードできます。

dslinux-dldi.tgz です。

- ・マジコン用パッチ

<http://chishm.drunkencoders.com/DLDI/>

から、使用しているマジコンに適合するパッチをダウンロードします。

当方はR4を使用しているので、上記参考サイトと同じパッチになります。

今回使用したのはr4tf.dldi(M3 Simply、R4兼用パッチ)です。

- ・パッチ当てソフト

<http://chishm.drunkencoders.com/DLDI/>

から、おなじくパッチングソフトをダウンロードしてきます。

パッチ当て自体は正しくあたればどのような方法でもいいので、好みの方法でやってください。

当方は参考サイトの方法に従い、コマンドプロンプトでパッチングしました。

インストール作業

といっても手順は簡単。

- 1.Windows上で、マジコンに対応したパッチを当てる
- 2.MicroSDカードにコピーする。
- 3.マジコンでDSを起動する。
- 4.Linuxを起動する。

1. パッチ当て

作業らしい作業はココだけです。

まず、準備した各ファイルを同一ディレクトリに置きます。[作業ディレクトリ]とします。

次にコマンドプロンプトを開いて該当ディレクトリに移動します。

パッチを当てます。書式は、dlditool [パッチファイル名] [DSLlinuxイメージ名]です。

[作業ディレクトリ]>dlditool r4tf.dldi dslinux.nds

下記のように表示されれば成功です。

Dynamically Linked Disk Interface patch tool v1.23 by Michael Chisholm (Chishm)

Trying "r4tf.dldi"

Old driver: R4(DS) - Revolution for DS

New driver: R4(DS) - Revolution for DS

Position in file: 0x000BC140

Position in memory: 0x020BBF40

Patch base address: 0xBF800000

Relocation offset: 0x428BBF40

Patched successfully

2. SDカードにコピー

特に説明は不要と思いますが、ファイルはヘンにディレクトリなど作ろうとせず、SDカードのルートにコピーしてください。

3. 起動

といっても電源を入れるだけです。

4. Linuxの起動

「Game」を選択し、上画面に表示される「DSLINUX.NDS」を選択してAボタンを押す。

これでLinuxが起動します。

ココから先。。。。

実は、DSはメモリが4Mしかないとのことで、Linuxとしてもう少しマトモに遊ぶには拡張RAMが必須です。

無論純正品ではダメらしく、もうひとつマジコンが必要になります。

<http://dslinux.org/cgi-bin/moin.cgi/RunningDSLlinux>

に一覧がありますが、GABスロットに入れるタイプのもので、Supercard SD/CF/Lite、M3 Perfect、M3 DS Real GBA Expansion Pack、G6 Liteといった32MBのものがよいようです。

今後入手も視野に入れております。

拡張メモリがないと、ネットワーク、サーバ、GUI(実用にはなりにくいようですが。。)などで遊ぶこともままなりません。

で、現在相方がSupercardを発注してくれて、入手待ち状況にあります。残念ながら今回は間に合いませんでしたが、夏までには入手の見込みですし、夏には変態サーバ立てたりしたいなあと考えています。

Far Northern Other World (Fnow) マイナーOS関連 活動紹介

・活動コミュニティ

Mixi :

http://mixi.jp/view_community.pl?id=550392

Otaba :

http://otaba.jp/?m=pc&a=page_c_home&target_c_commu_id=2373

Filn :

<http://filn.jp/communities/3726>

GoogleGroups :

<http://groups.google.fi/group/osmanix>

基本的には、Mixiにてプライマリの活動をしております。

毎号の原稿募集、その他アナウンスを行うのが中心ですが、MixiではいくつかマイナーOS系の話題を扱うトピックがあります。

まだコンテンツが豊富とはいえないですが、当方のマイナーOSネタサイトは以下になります。

Far Northern Other World マイナーOSコンテンツ

<http://fnow.org/main/modules/xfsection/index.php?category=1>

まあ正直なところ、最近はあまり目立った活動は出来ていません。

もう少し時間を取りたいのですが。。。

・参加イベント等

コミックマーケット、及びコンピューター関連の即売会が開催されれば、極力参加しています。

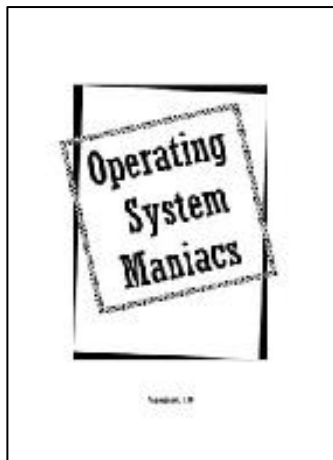
基本的に新刊は夏および冬のコミックマーケット時に発行しています。

また、2008年から「オリゲー・フェスタ☆68」にも参加を始めました。前回は参加できませんでしたが、2010年は参加したいと考えています。

マイナーOS本作成以外の活動ももう少しやってみたいとは思っていますが、良い企画がなかなか思いつかず、基本的に本書の頒布と、マイナーOSデータベースの更新が主要な活動となっています。

既刊のご案内

Operating System Maniacs Version 1



2006年夏：Ver1.0 2008年夏：Ver1.1 発行

A5サイズ/オフセット/44P 300円

主なコンテンツ：

【悲運の正統UNIX】UNIXWAREを語る（りろ@涅槃）

SSS-PCを動かしてみる

【悲運の先端OS】OS/2～eComStation（りろ@涅槃）

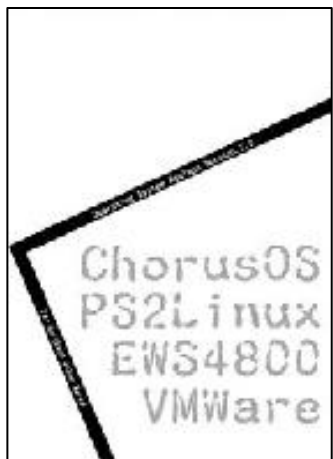
QNXのインストールと環境設定（立神梢一）

【マイナーOS】SkyOS Beの遺伝子を受け継ぐ「まぜこぜ」OS（りろ@涅槃）

記念すべき第一号。Webで知り合った、マイナーOSの同志、りろ@涅槃氏にもご寄稿いただき、それなりのボリュームになった。当方はSSS-PCとQNXのインストール、設定記事を執筆。

実際の表紙は、用紙：アトモスブラック インク：薄い茶 となっています。

Operating System Maniacs Version 2



2007年夏：Ver2 発行

A5サイズ/オフセット/44P 300円

主なコンテンツ：

ChorusOSを動かしてみる（立神梢一）

PS2LinuxをDVD-ROM無しで起動する（立神梢一）

マイナーOS求む（立神梢一）

NEC国産OSへの鎮魂曲（りろ@涅槃）

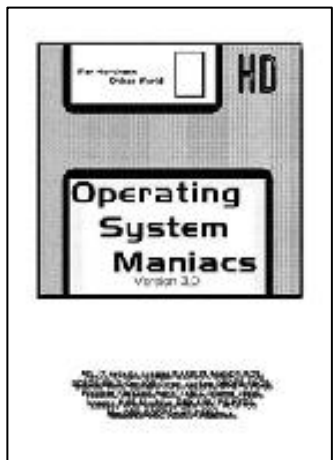
OSとしてのVMWare ESX Server（りろ@涅槃）

長い間の悲願であった、Chorus OSの導入記事と、いまさら感が漂いますが、PS2Linuxの導入記事を掲載しています。

りろ@涅槃氏にも前号に引き続きご寄稿いただきました。

実際の表紙は、用紙：色上質サーモン、インク：赤 となっています。

Operating System Maniacs Version 3



2007年冬：Ver3 発行

A5サイズ/オフセット/44P 300円

主なコンテンツ：

Intel MacminiでマルチOS/マルチブートの試み（りろ@涅槃）

PS2 Linuxをいじってみる ちょっとだけ後日談（立神梢一）

PTOSと過ごした80年代（りろ@涅槃）

マイナーOS駆け足レビュー（立神梢一）

(AELIX/artasia/asagao/BARBUX/blairOS/BOS/BOZOS/BRIX/ContOS/coron/Darkos/DROPS/FDOS/Freedos/FRITZOS/Hanoi/Idioma/jxOS/knasos/KOS/Moubius/QNX/UUU)

本号から駆け足レビューを開始。とにかく数を紹介したいとの考えからでした。

実際の表紙は、用紙：色上質水、インク：藍 となっています。

Operating System Maniacs Version 4



2008年夏：Ver4 発行

A5サイズ/オフセット/52P 300円

主なコンテンツ：

グランドピアニストにもっと巧く演奏させよう（ZETA Live CD）（SHINTA）

OS9000/80386 DemoFloppyをPCで動かしてみる（立神梢一）

マイナーOSを実用化する（りろ@涅槃）

マイナーOS駆け足レビュー PartII（立神梢一）

BugOS/POSYS/proolix/Roadrunner/runt/scaraOS/SMUGLYOS/Shag OS/SORA/spoon/SUNRISEOS/threx/Triangle/ZOFTOS/ μ nOS

BeOS系アプリケーションの開発等で活躍しているSHINTA氏からご寄稿いただき、いつもより増ページとなりました。りろ@涅槃氏も皆勤でご寄稿いただき、ありがたい限りです。

実際の表紙は、用紙：アトモスレッド、インク：あずき となっています。

Operating System Maniacs Version 5



2008年冬：Ver5 発行

A5サイズ/オフセット/32P 300円

主なコンテンツ：

90年代の幻影を求めて AmigaOSの香りを今に伝えるSyllableを試す（りろ@涅槃）

マイナーOS駆け足レビュー PartIII

bgsystem/MDF/PJOS/RadiOS/SARTORIS/Tesoro OS/tijOS/tizozos/tOfuS/Torison/trion/TYROS/viridis

このころから時間が取れなくなってきた、ちょっとページ減しています。ネタはゲップするほどあるんですが、こなす時間が無いのがつらいですね。。。

表紙は色上質特厚若草、インクは黒、本文はさくら/インクは黒となっています。

CD-ROM版

Version1～5 + おまけファイル等で構成されています。

基本的にはPDF版の各Versionと、それぞれで実験したOSのファイルを同梱しております。

既刊は現在すべて在庫がございます(1号は改版した1.1になります)

2、3、5号が在庫僅少となっており、在庫がなくなり次第デジタル版にシフトする方針です。

どうぞよろしくお願いいたします。

原稿募集要項

立神梢一

Operating System Maniacsでは、常時、原稿を募集しています。

マイナーOSの導入/環境構築記事

旧UNIX系OSの紹介記事

マイナーOSの紹介記事

異種アーキテクチャへのLinux/BSD系OSなどの導入/環境構築記事

現在/過去のOSに関連する業界動向

特定OSへの偏愛を吐露するコラム

等々。。。

ただしマイナーOSと銘打っている以上、できるだけ、以下のOSについては触れないつもりでいます。

1. Windows 特に2000以降
2. x86用のLinux 特に有名ディストリビューション
3. MacOS 特に9.x及びX

無論、たとえばマイナーなアーキテクチャへの導入関連や、マルチブート環境、エミュレータを使ってのお遊び、などであれば大歓迎です。

あるいは組み込み用OSをいじるケースなどでは、母艦がWindowsということもあるでしょうし、そういうケースは当然ながら特に問題ありません。

実際にはそんなに厳密な決めではないのですが、一応マイナー系OSということを意識するために上記のようにしています。

また、旧Versionで面白いことが出来るケースもあるかなと思い、特に1と3については上記のようにしております。

我もと思う方は、是非ご参加ください。

また、原稿ということでもなくとも、情報提供、レビューのリクエスト、素材の提供等も歓迎いたします。

特に以下のものについては、入手困難なこともあり、大歓迎いたします。

・ハードウェアはない、あるいは導入予定はないが、古いOSのインストールメディアを所持している。

⇒たとえば、EWS-UX、NetWare、SCO UNIX、Banyan VINES、、など

・逆に、OSは持っていないが古いハードウェアを所持している。

⇒SONY NEWS、EWS4800、BeBOX、、など

その他、NWアプライアンスの搭載OSについての考察や、ポーティング情報等も歓迎いたします。

また、原稿と言うことでなくとも、記事内容に間違い等がございましたら、ご指摘いただけますと幸いです。

主にWordでのレイアウトまで含めた原稿か、テキスト+画像でこちらでレイアウトする形になるかと思います。

(画像挿入位置は個別で指定)

ただし、ページ構成上の都合や、全体のフォント、サイズ合わせ等で若干の変更をさせていただく場合があります。

(その場合は変更後の確認をお願いした上で変更します)

詳細は奥付、または活動コミュニティなどへお願いいたします。

あまりの忙しさに涙目になること数ヶ月、実験についてはある程度行っていたのですが、原稿に起こす時間が十分に取れず、コピーでの発行となってしまいました。

es Operating Systemなど、実験したいOSでさわられていないものも数多くありますし、いまだDual Opteronマシンを有効活用できていませんし、旧UNIX陣 (IRIX、DASCOM AD、USIX等) もまだ原稿に出来ていません。

ので、まだまだネタはあるので、次こそはオフセで正式な?6号を発行したいです。。。

それでは、また。

立神梢一

「Operating System Maniacs」 Version5.5 奥付

発 行 日 : 2009年12月30日(コミックマーケット77) 東V26b

発 行 : Fnow(Far Northern Other World -極北別世界-)
Web: <http://fnow.org>
Mail: makoyuki@fnow.org

文 責 : 立神梢一

印 刷 : キンコーズ大崎店

連 絡 先 : 〒141-0033
東京都品川区西品川1-26-12
佐藤誠之(as立神梢一)

「Operating System Maniacs」

Far Northern Other World